

サツマイモ基腐病の対策について

種子屋久管内でサツマイモ基腐病が発生しています。7月（梅雨期～梅雨明け後）に急激に増加。早期発見が重要ですので、定期的なほ場見回りを徹底しましょう。



経済部
 営農販売課
 営農販売課長
馬場 博行

基腐病の症状

地際の茎が黒変し、茎葉は黄色や紫色に変色し次第にしおれる。茎葉が繁茂する時期には茎が黒～黒褐色に変色し地上部が枯死する。枯死株の塊根は、主に、なり首から腐敗する。（図1）

図1 サツマイモ基腐病の症状



株元の黒変

地上部の黄化・しおれ

茎の黒褐変

地上部の枯死

塊根の腐敗

【今後の対応】

1. 収穫時の対応

- ・発病したほ場は収穫を早めましょう。（台風等の降雨で一気に広がる）
- ・収穫時、芽の出ているイモや株元が黒い株は廃棄しましょう。
- ・廃棄する際は、ほ場外に持ち出し処分しましょう。
- ・病原菌はつるやいもに残るため、ロータリーに付着した残渣はこまめに除去しましょう。

※他のほ場へ持ち込まない。

2. 次年度作の対応

- ・発生したほ場は2年以上、サツマイモは栽培しないようお願いします。
- ・収穫後、ほ場を数回耕運し、残渣の分解を早めましょう。
- ・借地の場合、前年度の履歴を確認しましょう。
- ・バイオ苗を使用しましょう。
- ・育苗床の土壤消毒や苗消毒を実施しましょう。

3. 基腐病対策で心がけること

- ・病気の苗をもちこまないようにしましょう。
- ・ほ場の菌密度を下げる努力をしましょう。（耕運、抜き取り、輪作）
- ・初発から3年目には大発生するとの意見もあるので、大発生になる前に、発生ほ場は2年間休ませる長期的な営農体系を心がけましょう。